

# データ戦略と仕組み作り

—シンポジウム「データ戦略の課題と未来」資料—

京都情報大学院大学教授

別所 直哉

# 自己紹介

## 【別所直哉】

1981年慶應義塾大学法学部法律学科卒業。同年、持田製薬入社（労務、法務・知財、事業開発を担当）。

1999年にヤフー株式会社入社。法務部長、法務本部長を経て2018年まで執行役員（法務・知財、広報、政策企画、公共サービス、リスクマネジメント管掌）を務める。現在は京都情報大学院大学教授、紀尾井町戦略研究所株式会社理事長。検索エンジンのための著作権法改正、インターネット利用のための公職選挙法改正、海外コンテンツへの課税のための消費税法改正、債権法改正など数多くの法改正に関わった経験を有する。

発明推進協会知財ist研修「特許管理と知的財産戦略」講師、一般社団法人日本IT団体連盟理事、一般社団法人遺伝情報取扱協会理事長、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科兼任講師などを兼職。

著書 「ビジネスパーソンのための法律を変える教科書」（ディスカヴァー・トゥエンティワン出版）

「AI・IoT時代の企業法務」淵邊善彦弁護士編（第3章「コーポレートガバナンスとルールメイキング」執筆）

論文 「法律を変える－ロビイング入門」知財管理vol.69No.4（2019年4月）

「実務から見たAIがもたらす知的財産法へのインパクトと課題」法律時報（2019年7月号）



# DISCLAIMER

**本プレゼンテーションの内容は、私個人の見解であり、現在所属する組織を代表するものではありません。また、所属する組織の見解と一致しているかどうかも確認しておりません。**

**加えて、見解中にはまだ検証がなされていない仮説が含まれている点もご留意ください。**

# データ価値に対する期待



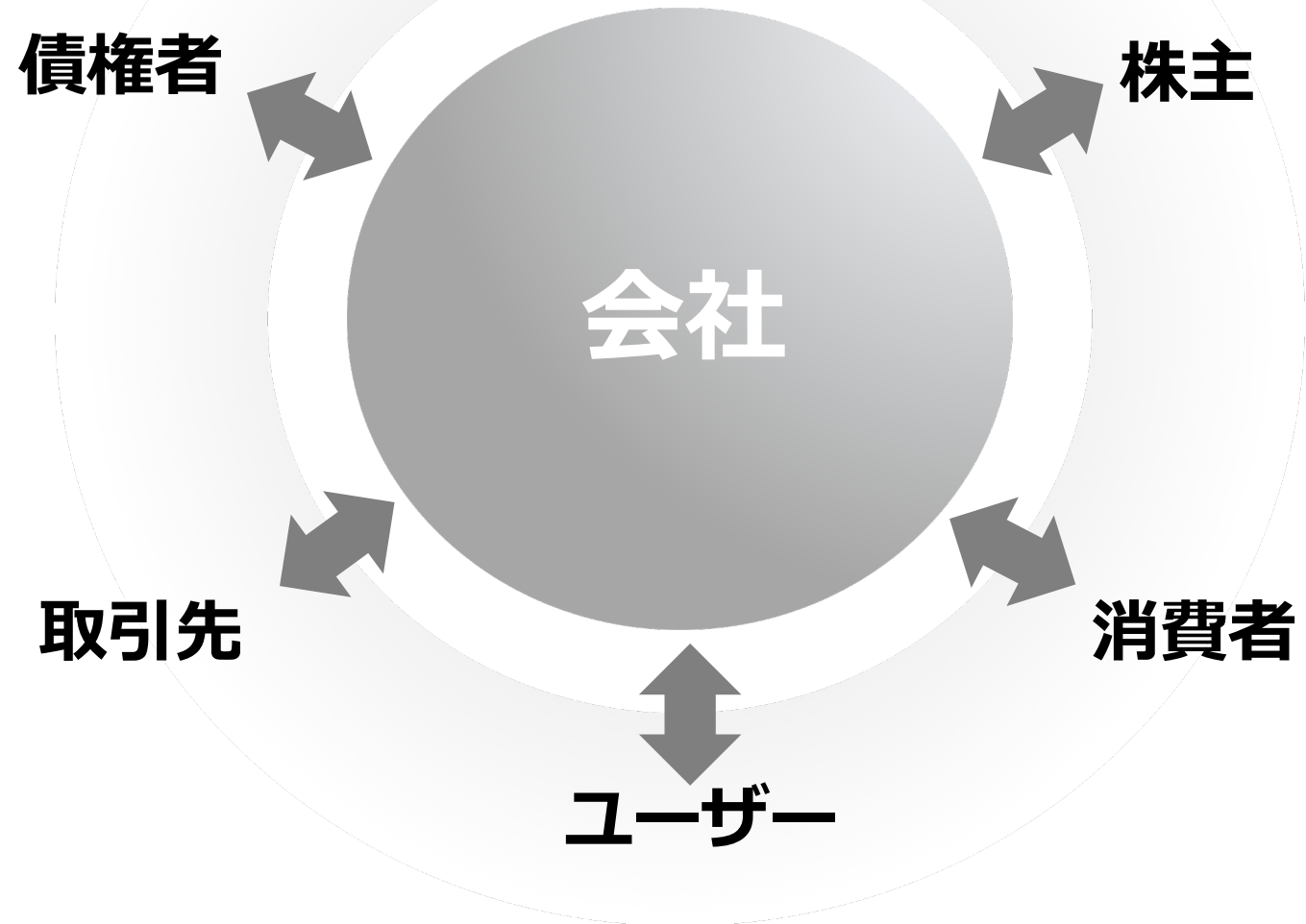
出典 : 05.2017 The world's most valuable resource -The Economist

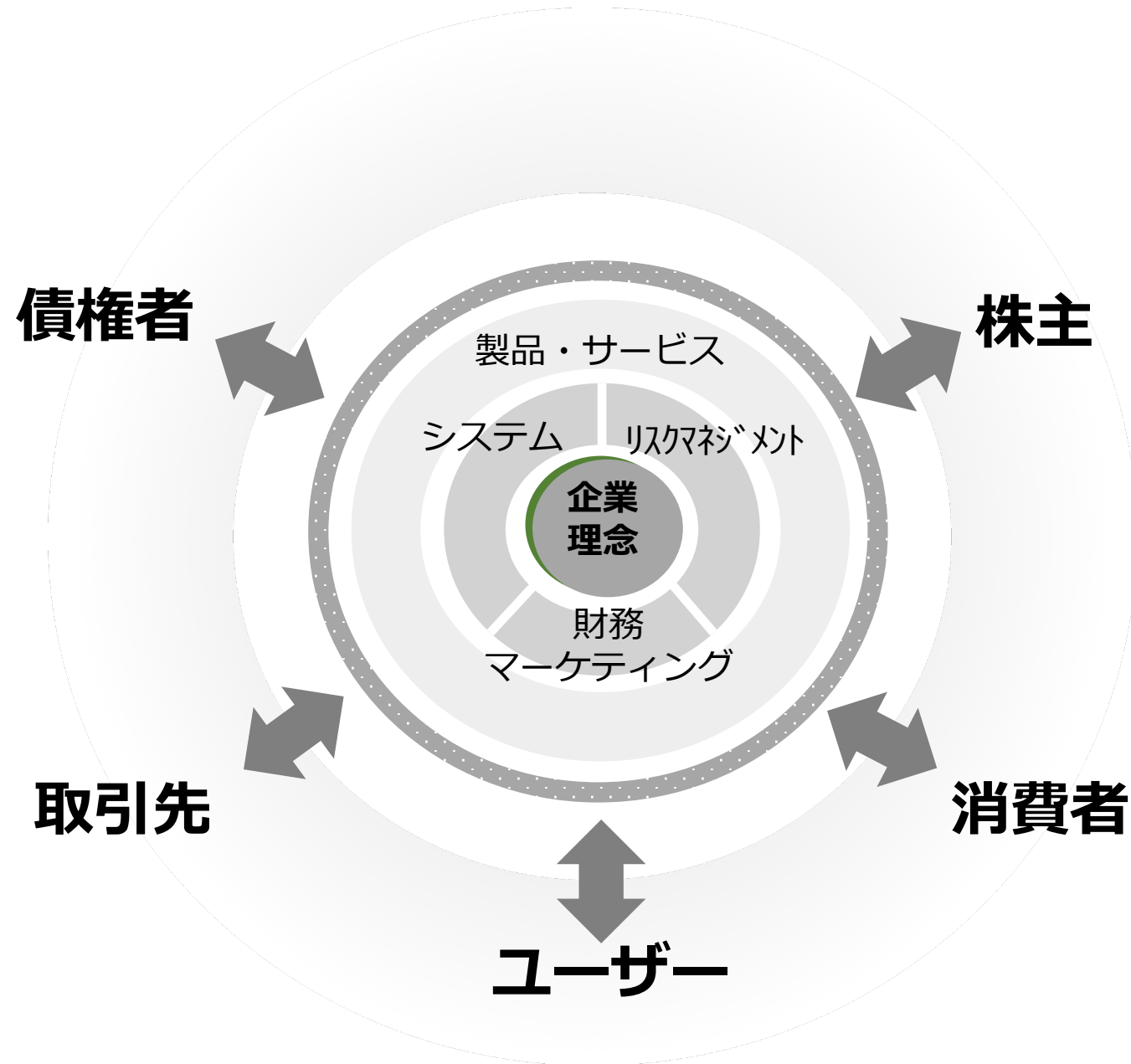
# データガバナンス

- **データの生成・蓄積・公開・利用に係わる管理の在り方を規定し、統制すること**
- **取り扱うデータの有用性（データの統一性・利用性）と、安全性（情報セキュリティや個人情報保護など）確保のための統治の仕組み**

# 仕組みとガバナンス

# コーポレートガバナンスを参考に考える





# データ利用の目的

## ＜データを生成している人々にとっての現実＞

- どこで、どう集められているかが分からない
- 何に使われているか分からない
- データ利用のメリットが分からない

## ＜データ利用の現実＞

- 複雑化し進化するテクノロジーの中で、データ利用が専門家にしか分からなくなっている
- データの価値は集合体になって初めて産まれるため予め利用方法が分かっていないデータもある

# 「透明性の確保」という課題

# 規範の範囲

# Ethicsという視点

# Ethicsの担保

# ELSI

## *Ethical, Legal and Social Issues*

研究の進行に伴って生じる生命・身体への取扱いについての倫理的、法的、社会的議論を検討する活動。ヒトゲノム計画で研究予算の一定割合がこの領域の検討に割り当てられた。以降、脳研究、再生医学などの大型プロジェクトと並行して、該当する技術がもたらす社会的懸念を特定し、かつ対応を検討するための活動が併置されるケースが目立つ。

(東京大学政策ビジョン研究センター 政策関連用語集より)

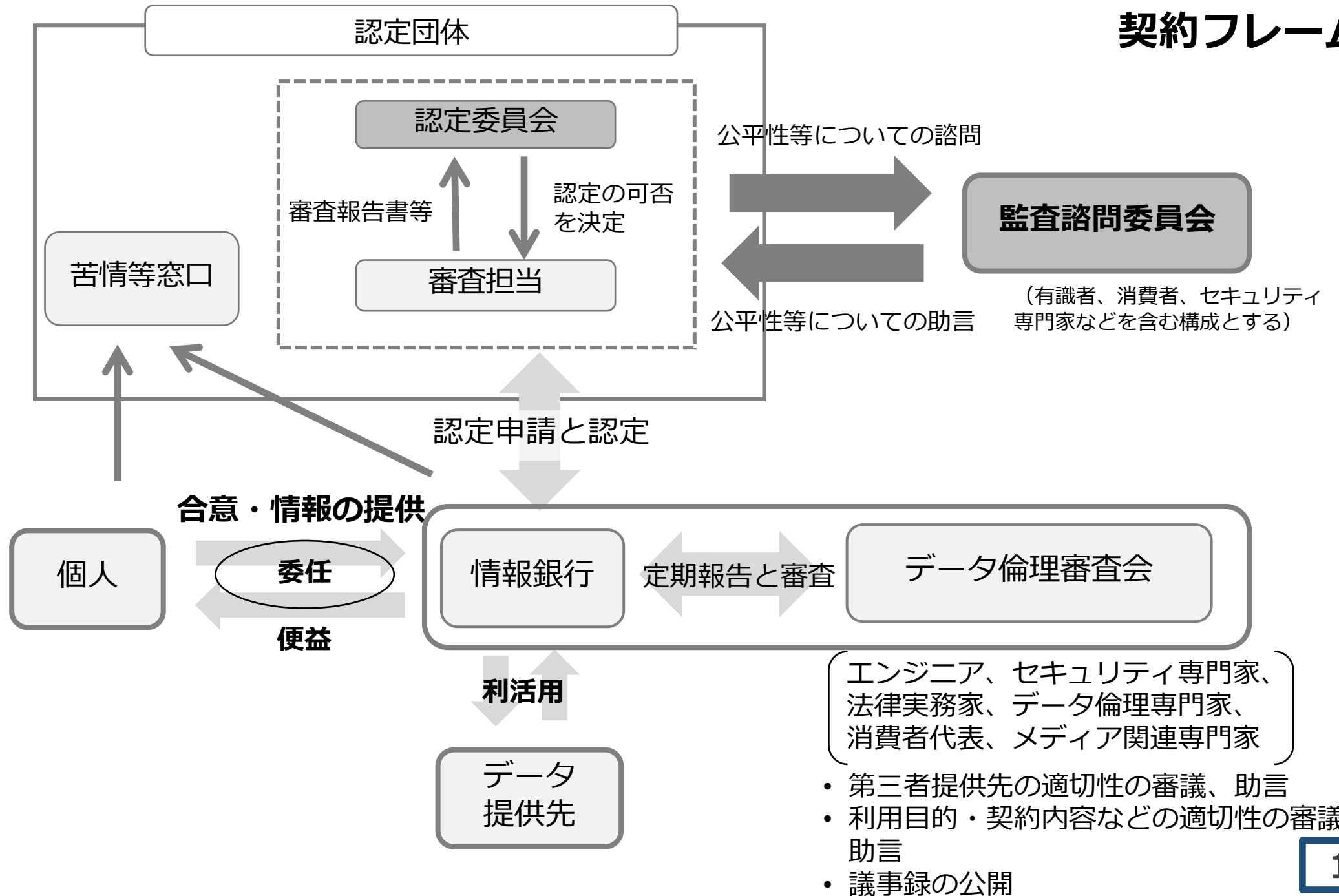


## データ利用の分野に拡張

**プラス「信頼」**



**モデルとしての「情報銀行」**



**EOF**